



## ◇コンテナ苗の普及・試験の取り組み -コンテナ苗植栽後の検証現地検討会-

5月12日、岐阜県下呂市金山市民会館および岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、その試験研究が全国で行われています。

高天良国有林では岐阜県森林研究所と共同でコンテナ苗試験地を設定し2年が経過したことから、これまでの研究開発の結果等について発表を行うとともに、現地において生育状況の検証を行い、その普及を図ることを目的に募集したところ、県内の地方公共団体や林業団体等約六十名の参加がありました。

はじめに、金山市民会館において民国連携して取り組んでいる研究課題について、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から①「普通苗とコンテナ苗の植栽工程の違い」岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員から②「植栽後の初期成長に優れるヒノキコンテナ苗の開発」同所渡邊専門研究員から③「植栽効率の向上と通年植栽に向けた技術開発」の発表を行いました。

午後は会場を高天良国有林の試験地に移し、成長、根鉢の発根状況の確認とコンテナ苗用の開発された様々な植栽器具の展示説明を行いました。

参加者からは「成長の早いコンテナ苗で下刈の省略ができないか」「地拵の省略も可能ではないか」「植栽器具の重さの違いがよくわかった」等の感想がありました。

今後は、現在までに蓄積している実証データと継続中の成長調査データを取りまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。



研究開発の結果発表



生育状況の検証



さまざまな植栽器具を手にする参加者



初期成長に優れるヒノキコンテナ苗

## ◇森林技術研修

6月7日から10日の4日間、森林技術・支援センター及び小川長洞国有林において、森林技術研修を実施しました。

この研修は森林整備事業体の監督・指導等に必要となる森林技術の向上を図ることを目的に実施するもので、各署の経験の浅い森林官等7名が受講しました。

カリキュラムでは、「集材作業に関する知識」「集材施設の概要及び集材機の操作、各種設備点検方法」「伐木造材及びチェーンソーに関する知識」「安全関係法令等に関する知識」等と多岐にわたり、実際に集材機・チェーンソー・バックホウの操作を体験しました。

なかでもチェーンソーの伐倒及びかかり木処理・造材の実技では、安全な作業方法について、熱心に講師の指導に耳を傾けていました。

今後は、研修で学んだことを実際の業務に活かすとともに、森林技術の向上のため、更なる自己研鑽が期待されるところです。



架線集材装置模型による説明



集材機運転体験



チェーンソーの目立て



伐倒の実技



伐倒木の枝払い



バックホーの運転体験

## ◇技術者育成研修

林野庁では、森林・林業の再生、成長産業化の実現を目指し、地域の取組を推進する森林総合監理士（フォレスター）の候補者となる技術者を育成するため、先に実施された中央研修で学んだ基礎的知識や考え方をベースに、森林づくり構想の描き方などをグループ演習・実習等を主体とした研修を国有林のフィールドを活用して実施しています。

中部ブロック研修は、9月6日～9日の4日間、下呂温泉旅館会館及び岐阜署管内の乗政・七宗国有林をフィールドに中部森林管理局管内の4県（富山、長野、岐阜、愛知）のほか、石川県、福井県、滋賀県、三重県、京都府の府県・市町村職員、民間（岐阜県、静岡県）の公社、林業事業体）22名及び国有林職員8名あわせて30名が研修を受講しました。



乗政国有林 森づくり構想実習



机上演習



七宗国有林 資源循環利用構想実習



七宗国有林 資源循環利用構想実習



各班で策定した経営ビジョンのプレゼン



研修生と研修スタッフ

参加者からは「森林総合監理士のプレゼン能力や前に進むためには関係者との調整が重要と感じた。」「森林を科学的に分析し活かしていくプロセスを学べた。」「一人の技術者という形で市町村にビジョンを伝えるだけでなく、チームで対応する重要性を感じた。」などの感想がありました。

今後は森林総合監理士資格取得を目指すとともに、この研修で得た「知識・技術・ネットワーク」を活かし、地域林業の現状把握と課題を共有し、山村地域の活性化に貢献されることが期待されています。

## ◇実践研修

林野庁では、森林・林業の再生、成長産業化の実現を目指し、地域の取組を推進する森林総合監理士（フォレスター）活動を実践していく上で必要な知識・技術を補強し、若手技術者等のレベルアップを図ることを目的として実践研修を国有林のフィールドを活用して実施しています。

中部ブロックでは10月12日から14日の3日間、岐阜県下呂市において「架線系作業システムによる間伐計画と木材流通」をテーマに、中部森林管理局管内の岐阜県のほか、静岡、三重、滋賀、鳥取県から8名、民間事業体から2名及び国有林から4名の14名が参加し、局所的な地形条件や出材量、機械の保有状況等に応じた架線系システムに関する知識・技術の不足を補うため、間伐を計画する上で、架線系作業システムによる搬出計画の作成やC・D材の供給も含めた、木材の生産から流通について実践的な指導・助言ができるよう、国有林の間伐事業地等を活用した現地検討・意見交換を各班で実施し、研修会場にて発表・討議を行いました。



課題・対応策を机上検討



間伐計画箇所の現地踏査



採材・流通・販売についての講義



図面・現地検討シートについて発表準備



各班の発表



研修生と研修スタッフ

受講者の皆さんには、今回の研修で得られた知識・見聞きした事例を、各地域での森林総合監理士活動に活かしていくことが期待されます。